令和元年度東京都硫黄島戦没者追悼式　追悼のことば

本日ここに、令和元年度東京都硫黄島戦没者追悼式が挙行されるにあたり、遺族を代表し戦没者の御魂の前に謹んで追悼の言葉を捧げます。

熾烈を極めた先の大戦から早七十五年になろうとしています。この硫黄島では日本国を守るため食糧、水、弾薬も無く、激しい戦闘と灼熱の過酷な環境の中　勇猛果敢に戦い、祖国日本の安泰と愛する家族の幸せを願いながら無念にも二万人以上の戦士が戦場に斃れました。

今日の日本の発展、平和な時代は戦没者の尊い犠牲と戦後の厳しい社会生活の中で戦没者の心を心として一生懸命に働いて乗り越えた人々の上に築かれていることを忘れてはなりません。

私の父は男兄弟二人ですが、弟は昭和十八年九月に戦死しています。そして昭和十九年三月に父に召集令状が来た時は私のおびあげ前でした。母は高齢の祖父母とともに農業に従事し家族を守っていました。出征し僅か八カ月後の昭和十九年十月に父が戦死した知らせを受け取りました。私は一歳にもなっていませんでしたので、母は乳飲み子を抱え高齢の父母を支えながらこの先どうなるか不安で悩んだ事でしょう。一家の柱を失い悲しみと、厳しい生活からか戦争や父の事はほとんど話してくれませんでした。私もあえて聞こうとしませんでした。私は父の面影を全く知らないで育ちました。祖父は過労から戦後五年後の昭和二十五年に死去し、それからは一人息子の私を育てるため祖母と二人で周囲の方々の支えを得ながら家業に励みました。

母が初めて硫黄島戦没者追悼式に参列した時は船で一週間かけて参列しました。船酔いが激しくやっとの思いで硫黄島に上陸し、直接目にした激しい戦争があった島の状況を家に帰ってから何度も話してくれた事を今でも覚えています。

母は平成三十年暮れにあと九日で百一歳になるときに天寿を全うしました。晩年は旅行や塗り絵、孫、ひ孫に囲まれて穏やかで幸せな生活を送ることができました。これは父の命を譲り受けて永く生きる事が出来たと思っています。しかし母が眠るお墓の中には父の遺骨がありません。父のようにいまだに帰れない多くの戦没者の遺骨がこの硫黄島に眠っております。一時も早く故郷、家族のもとに遺骨が帰れるようにご努力を今後もお願い致します。

時の経過とともに多大な犠牲・深い悲しみがあった戦争を知らない世代が多くなってきています。戦争の記憶はどんどん風化して忘れられようとしております。私たち遺族は今日の平和な社会を守り、平和の大切さ、戦争は絶対にしてはいけない、悲しい遺族を出してはならないとの思いを後世に伝えていかなければならない使命があると思います。硫黄島の激しい戦争の真実を語りつぎ、戦没者を末永く慰霊するように、本日の戦没者追悼式に孫となる長男も参加させていただきました。ありがとうございました。

終わりに臨み、本日の追悼式は民間機を用意していただき多くの遺族が参列できました。主催していただきました小池東京都知事、関係者の方々に感謝申し上げます。

戦没者の皆様のご冥福を祈ると共にご遺族の方々、関係各位のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げまして追悼の言葉といたします。

令和二年一月十六日

硫黄島戦没者遺族代表　岩井堅太郎